

BOD等5項目に係る類型改定検討結果

水系	区分等	水域名	【水系の概要】 【利用状況の変化等】	【類型指定の経緯】	【現行類型】	【水質の状況の変化】		【"目指すべき類型"と現行類型】	類型改定検討結果(案)		
						現行類型達成状況	【水質の変化等】 (BODの単位:mg/L)				
淀川	淀川(国指定)	淀川下流(1)	【水系の概要】 淀川水系は、淀川本川(淀川下流(1)及び淀川下流(2)の2水域に区分)と淀川左岸側の3支川・3水域と淀川右岸側の3支川・4水域からなる。 【利用状況の変化等】 淀川下流(1)は、引き続き、上水道水源(水道3級相当)として利用されている。 多くの水域で農業用水としての利水があるほか、河川空間は、芝生公園や親水公園等の施設として利用されている。芥川、水無瀬川では内水面漁業権が設定されアユ及びマス類の放流・遊漁が行われている。 今後の自然巡回路の整備、自然護岸の復元、水辺空間の保全と親水空間の創出などが検討されている。	S45:上水道水源(水道3級相当)であることからB類型に指定されている。	B	ハ	H3以降、連続して達成	最近5年間は全て上位類型(A類型)も達成しているなど、良好な水質で安定している。	(検討対象外)	(検討対象外)	
		淀川下流(2)		S45:当時の水質を考慮してD類型に指定 H15:水質が改善されたことを受けて、現状水質保全のためC類型に改定	C	イ	最近5年間は全て達成	水質は概ね安定しているが、上位類型(B類型)の達成には至っていない。			
	淀川下流(1)の支川	船橋川	淀川本川の2水域を除く6河川・7水域が今回の検討対象である。	S50:淀川下流(1)の支川4水域(船橋川、穂谷川、檜尾川、天野川)は、上水道水源として利用されている淀川下流(1)(B類型)の環境基準の達成・維持に支障を及ぼすことのないよう、淀川下流(1)と同じB類型に指定	B	ハ	未達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、7.7 7.3 5.7であり、最近5年間はやや改善の傾向がみられる。	淀川下流(1)の支川の7水域は、淀川下流(1)が水道3級相当の上水道水源として利用されていることから、 B類型以上の達成・維持を目標とすることが適当な水域 である。 全ての水域が既にB類型以上となっている。	(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし
		穂谷川			B	ハ	未達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、12 8.3 5.8であり、長期的には改善の傾向がみられる。		水質の現状を考慮し、「B類型口」を「B類型イ」とすることが適当	B口 Bイ
		檜尾川			B	口	最近4年間は連続して達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、9.3 4.6 2.3であり、特に最近10年間で大幅に改善されたが、上位類型(A類型)の達成には至っていない。		(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし
		天野川			B	ハ	未達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、10 7.1 4.0であり、長期的には改善の傾向がみられる。		(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし
		芥川(1)			A	イ				(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし
		芥川(2)			A	イ	連続して達成	BOD年平均値も1程度で安定しているなど、良好な水質が維持されている。		(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし
		水無瀬川			A	イ				(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし
		H4:水質が良好(A類型相当)で、水辺環境の整備も行われており、都市生活におけるうれしい場となる河川であると考えられることから、現況水質を保全するためA類型に指定			A	イ				(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし

水系	区分等	水域名	【水系の概要】 【利用状況の変化等】	【類型指定の経緯】	【現行類型】	【水質の状況の変化】		【 ” 目指すべき類型 ” と 現行類型】	類型改定検討結果 (案)					
						現行類型 達成状況	【水質の変化等】 (BODの単位 : mg/L)							
神 崎 川	神 崎 川 の 支 川	神 崎 川	<p>【水系の概要】 神崎川水系は、神崎川とその支川（安威川、茨木川、大正川、勝尾寺川、猪名川）及び猪名川の支川（箕面川、余野川、千里川、田尻川、一庫・大路次川、山辺川）の計12河川・17水域からなる。</p> <p>このうち、神崎川と猪名川を除く10河川・14水域が検討対象である。</p> <p>【利用状況の変化等】 神崎川水系のうち、安威川、猪名川上流、箕面川(1)、余野川は、引き続き、上水道水源として利用されている。</p> <p>農業用水及び工業用水としての利水があるほか、河川空間は、自転車道や多目的広場などの親水公園等の施設として利用されている。一庫・大路次川、田尻川では内水面漁業権が設定され、アユ及びマス類の放流・遊漁が行われている。</p> <p>今後の景観及び親水性向上、生物の生息・生育環境の向上、自然環境の保全、田園風景との調和に配慮した整備、周辺景観と一体となった河川整備などが検討されている。</p>	S45：当時の水質を考慮してE類型に指定 H13：水質が改善されたことを受けて、現状水質保全のためB類型に改定	B	□	(最近4年間は連続して達成)	BOD年平均値も2程度で安定している。	(検討対象外)	(検討対象外)				
		安威川上流		S45：神崎川の支川である安威川の上流部は、上水道水源としての利用があったことから、A類型に指定	A	イ	連続して達成	BOD年平均値も1程度で安定しているなど、良好な水質が維持されている。	<p>神崎川の支川の4河川・7水域は、神崎川がB類型に指定されていることから、B類型以上の達成・維持を目標とすることが適当な水域である。</p> <p>安威川下流(3)：現在はC類型である。他の6水域は既にB類型以上となっている。</p>	(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし			
		安威川下流(1)		S45：安威川の下流部は(1)～(3)の3つの水域に区分し、水質の状況や利用状況等に応じて、それぞれ、B、D、E類型に指定 H4：安威川下流(2)は、水質が改善されたことを受けて、現状水質保全のためC類型に改定	B	イ	連続して達成	最近5年間は、BOD年平均値は1.5程度で安定し、また、上位類型(A類型)も達成している状況である。		現状の水質を保全することを目的として、上位類型(A類型イ)に改定することが適当	Bイ Aイ			
		安威川下流(2)		B	□	連続して達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、5.4 4.0 2.3であるなど、長期的には改善の傾向がみられる。また、最近5年間のBOD年平均値は2程度で、上位類型(B類型)も概ね達成している状況である。	B□ Aイ						
		安威川下流(3)		H13：神崎川がB類型に改定されたこと、水質が改善されたことを受けて、安威川下流(1)及び下流(2)についてはB類型、下流(3)についてはC類型に改定	C	イ	連続して達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、最近5年間は、BOD年平均値は1.5程度で安定し、また、上位類型(A類型)も達成している状況である。		現状の水質を保全することを目的として、上位類型(A類型イ)に改定することが適当	Cイ B□			
		佐保川及び茨木川		H4：当時の水質状況から、魚の生息に良好な水質を保全することを目標にC類型に指定 H13：神崎川がB類型に改定されたこと及び水質が改善されたことを受けて、B類型に改定(「茨木川」の指定水域に佐保川を加えることとし、水域名を「佐保川及び茨木川」とした。)	B	イ	連続して達成	最近5年間は、BOD年平均値は2以下程度で安定し、また、上位類型(A類型)も概ね達成が見込める状況である。			現状の水質を保全することを目的として、上位類型(A類型□)に改定することが適当	Bイ Aイ		
		大 正 川		B	□	連続して達成	最近5年間は、BOD年平均値は10 7.6 7.6であり、特にここ10年程度はあまり改善されていない。	(検討対象外)		(検討対象外)				
		勝尾寺川		B	□	連続して達成								
		猪 名 川 の 支 川		猪名川上流	S45：上水道水源としての利用のある上流部(箕面川合流点より上流)をB類型、下流部については水質保全を目的としてE類型に指定 H13：猪名川下流(2)について、水質保全のためD類型に改定	B	ハ	(連続して達成)		BOD年平均値も1程度で安定しており、上位類型(A類型)も達成している状況である。	(検討対象外)	(検討対象外)	(検討対象外)	
				猪名川下流(2)	D	イ	(達成しているとはいえない状況)	(検討対象外)		(検討対象外)	(検討対象外)	(検討対象外)		
	箕面川(1)		S50：箕面川の上流部は、良好な上水道水源としての利用があったことからA類型に指定	A	イ	連続して達成	BOD年平均値も1程度で安定しているなど、良好な水質が維持されている。	<p>猪名川上流の支川の6河川・7水域は、既に全てA類型に指定されている。</p>		(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし			
	箕面川(2)		S50：箕面川の下流部、余野川、千里川については、各水域の利用目的や現況水質をもとに、それぞれ、BまたはC類型に指定 H14：水質が改善されたことを受けて、現状水質保全のためA類型に改定	A	イ				改定なし					
	余野川		A	イ	改定なし									
	千里川	A	イ	改定なし										
	田尻川	A	イ	改定なし										
一庫・大路次川	H14：良好な水質を維持することを目的にA類型に指定	A	イ	改定なし										
山辺川	A	イ	改定なし											

水系	区分等	水域名	【水系の概要】 【利用状況の変化等】	【類型指定の経緯】	【現行類型】	【水質の状況の変化】		【 ” 目指すべき類型 ” と 現行類型】	類型改定検討結果（案）	
						現行類型 達成状況	【水質の変化等】 (BODの単位：mg/L)			
寝屋川	寝屋川	寝屋川	<p>【水系の概要】 寝屋川水系は、寝屋川とその支川の恩智川、古川、第二寝屋川と第二寝屋川の支川の平野川及び平野川分水路の6水域で、寝屋川は、大阪市内で大川に合流する。水系全体として、固有水量が少なく、低勾配であること、下流部は感潮域であることなどから、水質改善が進みにくい。寝屋川には淀川からの導水がある。古くから治水対策が重要視されてきた地域で、護岸整備のほか、寝屋川や恩智川では治水緑地や多目的遊水池事業が実施されている。</p> <p>【利用状況の変化等】 寝屋川水系では農業用水及び工業用水としての利水があるが、河川空間としては、川とまちが高い堤防により分離され、河川を空間や景観として利用している場所は限られる。寝屋川の京阪寝屋川駅周辺では多自然川づくり事業が実施され、恩智川や第二寝屋川の上流部では川沿いの植樹や遊歩道が整備されるとともにアドトリバー活動が実施されているなど、全体的には都市域における身近な河川として注目度は高まりつつある。最下流部にあたる京橋口付近では、緑地を施した遊歩道や階段護岸等が整備され都心部のオアシス的存在として利用されているほか、水上バスも運行されており、大阪の観光ルートとなっている。今後の水景を生かしたゆとり・うるおいのある空間づくりや親水性の向上、都市を流れる河川のゆとり・安らぎ空間としての整備などが検討されている。</p>	<p>S45：寝屋川及び恩智川について、水質保全を目的としてE類型に指定 S50：第二寝屋川及び平野川について、水質保全を目的としてE類型に指定 H4：古川及び平野川分水路について、水質保全を目的としてE類型に指定 H15：6水域とも、「国や大阪府及び関係機関が連携して水質改善に取り組むこととなっており、上位類型の達成が見込まれる」としてD類型に改定</p>	D	八	上流部（住道大橋より上流）：連続して達成	上流部は、最近4年間のBOD年平均値が萱島橋は2～3程度、住道大橋は3～4程度で、いずれの地点も上位類型（C類型）を達成している。	<p>現在、全域を1つの水域（寝屋川）としてD類型を指定しているが、上流部（住道大橋より上流）については、一部の区間で親水性に配慮した河川整備も行われていること、C類型も達成が見込まれることから、「C類型イ」に改定することが適当</p> <p>下流部（住道大橋より下流）については、引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、「D類型八」を「D類型口」とすることが適当</p> <p>寝屋川水系の6河川・6水域は、都市域を流下する水域であり、水質の状況等を踏まえて現在はD類型に指定されている。しかしながら、一部の水域では親水性に配慮した事業なども実施されているほか、全般的に身近な河川への注目度も高まってきていることから、魚の生息に良好とされる類型（C類型以上）の達成・維持を目標とすることが適当な水域である。</p> <p>6水域とも現在はD類型である。</p>	寝屋川D八 寝屋川(1)Cイ
							下流部（住道大橋より下流）：未達成	下流部の今津橋は、支川の水質や感潮域であることの影響もあり、最近5年間のBOD年平均値は10程度で、改善の程度が低い。		寝屋川D八 寝屋川(2)D口
	D	八			達成しているとはいえない状況	過去15年間のBOD5年間平均値は、19 10 5.9であり、長期的には改善の傾向がみられる。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、「D類型八」を「D類型口」とすることが適当	D八 D口		
	D	八			達成しているとはいえない状況	過去15年間のBOD5年間平均値は、11 8.4 7.6であり、長期的には改善の傾向がみられる。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、「D類型八」を「D類型口」とすることが適当	D八 D口		
	D	八			連続して達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、8.5 6.4 4.8であり、長期的には改善の傾向がみられるが、現状では上位類型（C類型）の達成は見込めない。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、「D類型八」を「D類型イ」とすることが適当	D八 Dイ		
	D	イ			達成しているとはいえない状況	過去15年間のBOD5年間平均値は、8.2 5.7 7.3であるなど、近年は改善の傾向がみられない。	（引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要）	改定なし		
	D	口			達成しているとはいえない状況	過去15年間のBOD5年間平均値は、12 7.2 7.3であるなど、近年は改善の傾向がみられない。		改定なし		

水系	区分等	水域名	【水系の概要】 【利用状況の変化等】	【類型指定の経緯】	【現行類型】	【水質の状況の変化】		【 ” 目指すべき類型 ” と 現行類型】	類型改定検討結果（案）		
						現行類型 達成状況	【水質の変化等】 (BODの単位：mg/L)				
大阪市内河川	淀川から分流	大川	【水系の概要】 大阪市内を縦横に流れる河川群で、12水域が類型指定されている。このうち、大川は淀川からの分流を受けている、土佐堀川と東横堀川は上流域の寝屋川の影響を受ける。 流域は早くから下水道整備が進み、整備率はほぼ100%となっているが、一部に合流式の下水道がある。 【利用状況の変化等】 大阪市内河川は、利水はなく、水上交通として水上バス、渡船が運行している。河川空間は、治水対策により親水性に乏しい河川であったが、近年では、かつての“水の都”の再生に向けた社会的ニーズ、気運が高まり、大阪を代表する集客拠点が河川の沿岸にできるなど大都市の中の潤いの場等として注目度が高まっている。 人々が川に近づけるよう、川とまちが一体となった潤いある河川環境の創出・保全、水上交通の活性化による水辺のネットワーク強化や水都として魅力ある水辺景観の創造などが検討されている。	S45：淀川からの分流河川である大川については、当時の水質の状況を保全することを目的にC類型に指定 H15：その後の水質改善と水辺環境の整備に対応して、B類型に改定	B	イ	連続して達成	BOD年平均値は1.5程度で安定しているなど、良好な水質が維持されている。	大阪市内河川は、全ての流域が都市域である河川であり、護岸等の河川の形態や利用目的からはC類型が適当と考えられる水域である。しかしながら、大阪市内河川の流域は既に下水道もほぼ100%整備されているほか、近年は水の回廊といわれる部分を中心として、都市域の潤いの場等としての注目度も高まっている。また、12水域のうち、大川等5水域については、既に、都市域の潤いの場としての利用に十分対応したB類型になっている。これらを考慮すると、現状においては底質や護岸など、親水性には乏しい状況にある区間もあるものの 全水域ともB類型の達成・維持を目標とすることが望ましい。 12水域中、土佐堀川等7水域は現在C類型である。他の5水域は既にB類型となっている。	(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし
	大川・寝屋川の下流	堂島川		S45：大川の下流にあたる堂島川は、当時の水質の状況を保全することを目的にD類型に指定 H15：その後の水質改善に対応して、B類型に改定	B	イ	達成しているとはいえない状況	過去15年間のBOD5年間平均値は、4.0 2.6 2.5であり、ここ10年程度は年平均値2～3程度で安定している。		改定なし	
	東横堀川の下流	土佐堀川		S45：当時の水質の状況を保全することを目的にE類型に指定 H4：その後の水質改善に対応してC類型に改定	C	ハ	達成しているとはいえない状況	過去15年間のBOD5年間平均値は、5.5 3.6 4.0であり、ここ10年程度は年平均値4程度となっている。現状では上位類型（B類型）の達成は見込み難い。		Cハ Cイ	
	淀川から分流	道頓堀川		S45：当時の水質の状況を保全することを目的にE類型に指定 H4：その後の水質改善や水辺環境の整備に対応してC類型に改定 H15：その後の水質改善や水辺環境の整備に対応してB類型に改定	B	ハ	連続して達成	BOD年平均値は2程度で安定している。		Bハ Bイ	
	六軒家川	正蓮寺川		S45：当時の水質の状況を保全することを目的にE類型に指定 H4：その後の水質改善に対応してC類型に改定	C	イ	連続して達成	BOD年平均値は2程度で安定している。また、最近5年間は上位類型（B類型）も達成している。		Cイ Bイ	
	淀川から分流	六軒家川		S45：当時の水質の状況を保全することを目的にE類型に指定 H4：その後の水質改善や水辺環境の整備に対応してC類型に改定 H15：その後の水質改善や水辺環境の整備に対応してB類型に改定	B	イ	連続して達成	BOD年平均値は1.5程度で安定している。		改定なし	
	尻無川	安治川		S45：当時の水質の状況を保全することを目的にE類型に指定 H4：その後の水質改善に対応してC類型に改定	B	イ	連続して達成	BOD年平均値も2程度で安定している。また、最近5年間は、上位類型（B類型）も達成または概ね達成している。		(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし
	道頓堀川の下流	尻無川		S45：当時の水質の状況を保全することを目的にE類型に指定 H4：その後の水質改善に対応してC類型に改定	C	イ	連続して達成	BOD年平均値も2程度で安定している。また、最近5年間は、上位類型（B類型）も達成または概ね達成している。		Cイ Bイ	
	道頓堀川の下流	木津川			C	イ	連続して達成			Cイ Bイ	
	木津川から分流	木津川運河			C	イ	連続して達成			Cイ Bイ	
	木津川の支流	住吉川		S45：当時の水質の状況を保全することを目的にE類型に指定 H4：その後の水質改善に対応してC類型に改定	C	ハ	連続して達成	BOD年平均値は3程度で安定している。また、最近5年間は、上位類型（B類型）も概ね達成が見込める状況にある。		Cハ Bロ	
	大川・寝屋川の下流	東横堀川		H15：水質の保全を目的にC類型に指定	C	イ	連続して達成	BOD年平均値は2.5程度で安定している。また、最近5年間は、上位類型（B類型）も概ね達成している。		Cイ Bイ	

水系	区分等	水域名	【水系の概要】 【利用状況の変化等】	【類型指定の経緯】	【現行類型】		【水質の状況の変化】		【"目指すべき類型"と 現行類型】	類型改定検討結果(案)		
					現行類型 達成状況	【水質の変化等】 (BODの単位: mg/L)	現行類型 達成状況	【水質の変化等】 (BODの単位: mg/L)		現行類型 達成状況	【水質の変化等】 (BODの単位: mg/L)	現行類型 達成状況
大和川	大和川の支川	石川	【水系の概要】 大和川水系は、大和川の支川である石川、東除川、西除川と石川の支川である千早川、天見川、石見川、飛鳥川、梅川、佐備川の計10河川・12水域からなる 【利用状況の変化等】 大和川水系は、古くから農業用水としての利水があり、河川空間は、自転車道や多目的広場などの親水公園等の施設、遊歩道の整備により散歩道として利用されている。 (大和川の堺市浅香山取水口での上水道水源取水はS53.12に停止された。) 今後の水辺環境の保全と親水空間の創出などの河川整備などが検討されている。	S45: 上水道水源の上流域にあることからB類型に指定	B	八	連続して達成	BOD年平均値は2程度で安定している。	石川及び石川の支川の計7水域については、石川が「水産2級相当(サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用)」に適應しているとされるB類型に指定されていることから、全ての水域がB類型以上の達成・維持を目標とすることが適当な水域である。 現在、飛鳥川及び佐備川はC類型である。他の5水域は既にB類型以上となっている。	水質の現状を考慮し、「B類型八」を「B類型イ」とすることが適当	B八	Bイ
		千早川		S50: 上水道水源の上流域にあることからB類型に指定 H15: その後の水質状況に対応してA類型に改定	A	イ	連続して達成	BOD年平均値は1程度で安定しているなど、良好な水質が維持されている。		(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし	
		天見川		H4: 石見川は、上水道水源としての利用があることと良好な水質の保全を目的としてA類型に指定、また、石見川の下流に位置する天見川は石見川の類型指定に伴い、河川の連続性の観点から類型指定を行うとされ、当時の水質状況をもとにB類型に指定された。	B	イ	未達成	BOD年平均値は3~4程度で横ばいの状況である。		(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし	
		石見川		A	イ	連続して達成	BOD年平均値は1程度で安定しているなど、良好な水質が維持されている。	(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)		改定なし		
		飛鳥川		C	ロ	未達成	BOD年平均値は5~6程度で横ばいの状況である。	(引き続き、B類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要)		改定なし		
		梅川		B	ロ	連続して達成	BOD年平均値は1.5程度で安定しているなど、良好な水質が維持されている。また、上位類型(A類型)も達成している状況である。	現状の水質を保全することを目的として、上位類型(A類型イ)に改定することが適当		Bロ	Aイ	
		佐備川		C	ロ	連続して達成	BOD年平均値は3程度で安定しているが、現時点では上位類型(B類型)の達成は見込めない。	引き続き、B類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、水質の現状を考慮し、「C類型ロ」を「C類型イ」とすることが適当		Cロ	Cイ	
	大和川	大和川中流	S45: 大阪府域の大和川は、大和川中流(浅香山より上流)と大和川下流(浅香山より下流)の2水域に区分されている。大和川中流については堺市内(浅香山取水口)で上水道水源としての利用があったが、当時の水質状況を考慮してC類型、大和川下流はD類型に指定されている。	C	八	***	過去15年間のBOD5年間平均値は、9.2 5.9 3.9で、長期的には改善傾向がみられる。	(検討対象外)	(検討対象外)			
		大和川下流	D	八	***	過去15年間のBOD5年間平均値は、13 5.1 4.7で、長期的には改善傾向がみられる。	(検討対象外)	(検討対象外)				
	大和川中流の支川	東除川	S50: 水質保全を目的としてC類型に指定	C	八	未達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、19 15 9.1であり、長期的には改善の傾向がみられる。	東除川及び西除川(2)は、都市域を流下する水域であり、現状の水質の状況等を踏まえ、現在はそれぞれC類型、D類型に指定されている。しかしながら、府民の身近な河川への関心を高めるためにも、魚の生息に良好とされる類型(C類型以上)の達成・維持を目標とすることが適当な水域である。	(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし		
		西除川(1)	S50: 西除川については、利水目的の相違から、上流部(狭山池流出端より上流)と下流部の2水域に区分し、それぞれB類型、D類型に指定	B	八	十分に達成しているとはいえない状況	過去15年間のBOD5年間平均値は、4.5 3.7 2.8であり、長期的には改善の傾向がみられる。	水質の現状を考慮し、「B類型八」を「B類型ロ」とすることが適当	B八	Bロ		
		西除川(2)	D	八	未達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、16 13 9.9であり、長期的には改善の傾向がみられる。	西除川(2)は、現在D類型である。東除川、西除川(1)は既にC類型以上となっている。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、水質の現状を考慮し、「D類型八」を「D類型ロ」とすることが適当	D八	Dロ		

水系	区分等	水域名	【水系の概要】 【利用状況の変化等】	【類型指定の経緯】	【現行類型】	【水質の状況の変化】		【 ” 目指すべき類型 ” と 現行類型】	類型改定検討結果（案）		
						現行類型 達成状況	【水質の変化等】 (BODの単位：mg/L)				
泉州諸河川 (檜井川以北)	石津川	石津川	<p>【水系の概況】 泉州諸河川については、石津川、大津川、春木川、津田川、近木川、見出川、佐野川、檜井川、男里川、番川、大川、東川、西川の13河川及びその支流の24水域について類型指定を行っている。</p> <p>このうち、特に、津田川、見出川、佐野川など泉州中部の河川は、他の地域と比べて下水道整備が遅れている。</p> <p>【利用状況の変化等】 泉州諸河川では、多くの河川で農業用水としての利水があるほか、一部の河川では下水道水源として利水がある。</p> <p>空間利用はあまりされておらず、主としてコンクリートブロック護岸が施工されており画一的な河川景観の河川が多いが、市民団体等により様々な河川愛護活動が行われている河川もみられる。</p> <p>緑豊かで美しい環境と景観の保全創出、生物の多様性、水害等からの安全性にも十分配慮した整備など身近な河川の自然に触れ合えるよう親水性に配慮した川づくりが検討されている。</p>	S48：水質保全を目的としてE類型に指定 H4：石津川の支流である和田川は水質保全を目的としてC類型に指定	E	八	平成15年度以降は、連続して達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、13 9.0 6.5で、長期的には改善傾向がみられる。最近5年間は上位類型（D類型）も概ね達成が見込まれる状況にある。	<p>泉州諸河川のうち、檜井川以北の河川は、いずれも中流・下流域が市街地化した河川であるが、他の流域と比べて生活排水対策の進捗が遅れているため、現状水質の状況等から上流部や支川を除き、現在はDまたはE類型に指定されている。しかしながら、これらの河川についても近年は、身近な河川としての注目度も高まりつつあることから、より良い水質を目指して、上流部及び支川はB類型以上、下流部は魚の生息に良好とされる類型（C類型以上）の達成・維持を目標とすべき水域である。</p> <p>石津川、大津川下流、春木川、津田川、近木川下流、見出川、佐野川、檜井川下流の8水域は、現在、DまたはE類型である。 上流部または支川の水域である7水域は既にB類型以上となっている、 和田川はC類型になっている、</p>	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、水質の現状を考慮し、「E類型八」を「D類型口」とすることが適当	E八 D口
		の石津川 和田川			C	八	未達成	BOD年平均値は6程度で横ばいの状況となっている。		(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし
	大津川	大津川上流		B	口	未達成	BOD年平均値は5程度で横ばいの状況となっている。	(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)		改定なし	
		大津川下流		D	八	平成15年度以降は、連続して達成	BOD年平均値は6程度で横ばいの状況となっている。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、水質の現状を考慮し、「D類型八」を「D類型イ」とすることが適当		D八 Dイ	
	大津川の支川	牛滝川		B	八	未達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、6.8 4.6 2.8であり、長期的には改善傾向がみられる。	<p>水質の現状を考慮し、「B類型八」を「B類型口」とすることが適当</p> <p>(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)</p> <p>(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)</p> <p>(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)</p>		改定なし	
		松尾川		B	八		過去15年間のBOD5年間平均値は、8.0 5.0 3.7であり、長期的には改善傾向がみられる。				
		横尾川		B	イ		過去15年間のBOD5年間平均値は、7.5 6.0 4.1であり、長期的には改善傾向がみられる。				
		父鬼川		A	イ		平成15年度以降は、連続して達成				BOD年平均値も1.5程度で安定しているなど、良好な水質が維持されている。
	春木川	春木川		E	八	平成14年度以降は、連続して達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、19 11 6.3であり、長期的には改善傾向がみられる。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、水質の現状を考慮し、「E類型八」を「D類型イ」とすることが適当		E八 Dイ	
		津田川		E	八	平成15年度以降は、概ね達成	BOD年平均値は8程度で横ばいの状況となっている。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、「E類型八」を「E類型イ」とすることが適当		E八 Eイ	
	近木川	近木川上流		B	イ	平成15年度以降は、連続して達成	BOD年平均値は2程度で安定している。	(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)		改定なし	
		近木川下流		E	八	平成14年度以降は、連続して達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、23 9.5 7.2であり、長期的には改善傾向がみられる。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、水質の現状を考慮し、「E類型八」を「D類型口」とすることが適当		E八 D口	
	見出川	見出川		E	八	未達成	BOD年平均値は11程度で横ばいの状況となっている。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、「E類型八」を「E類型口」とすることが適当		E八 E口	
	佐野川	佐野川		E	八	平成15年度以降は、連続して達成	過去15年間のBOD5年間平均値は、13 10 8.1であり、長期的には改善傾向がみられる。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、「E類型八」を「E類型イ」とすることが適当		E八 Eイ	
	檜井川	檜井川上流		B	イ	未達成	BOD年平均値は5程度となっている。	(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)		改定なし	
檜井川下流		E	八	平成16年度以降は、連続して達成	BOD年平均値は6～7程度となっている。	引き続き、C類型以上を見据えて流入負荷の削減等の水質改善対策を進めることが必要で、「E類型八」を「E類型イ」とすることが適当	E八 Eイ				
				S48：大阪湾に直接流入する泉州諸河川の中では比較的河川延長が長く（15～16km程度）、流域も山間部から市街地まで多様であることから、上流及び下流の2水域に区分し、上流域についてはB類型、下流域についてはE類型に指定							

水系	区分等	水域名	【水系の概要】 【利用状況の変化等】	【類型指定の経緯】	【現行類型】		【水質の状況の変化】		【"目指すべき類型"と 現行類型】	類型改定検討結果(案)	
					現行類型 達成状況		【水質の変化等】 (BODの単位: mg/L)				
泉州諸河川(男里川以南)	男里川	男里川		S48: 上水道水源としての利用目的等から A類型に指定	A	イ	未達成	過去15年間のBOD 5年間平均値は、4.5 3.6 3.3であり、長期的には改善傾向がみられる。	男里川以南の河川は、全て既にA類型に指定されている。	(引き続き、現行類型の達成・維持を目標とすることが適当)	改定なし
	男里川の支川	金熊寺川			A	イ		過去15年間のBOD 5年間平均値は、2.8 2.7 2.5で、平成元年以前(年平均値10以上)に比べると改善されたが、近年は特に改善傾向はみられない。			
	菟砥川	A			イ	過去15年間のBOD 5年間平均値は、3.3 2.9 2.9で特に改善傾向はみられない。					
	山中川	A			イ	連続して 達成	BOD年平均値も1.5程度で安定しているなど、良好な水質が維持されている。				
	番川	A			イ						
	大川	A			イ						
	東川	A			イ						
	西川	A			イ						